

尼崎市長あて

尼崎市市民提案制度 実施結果報告書

尼崎市市民提案制度実施要綱に基づき、次のとおり報告します。

1 提案概要

団体名及び 代表者氏名	一般社団法人 ポノポノプレイス 代表理事 吹野 加代
事業名	双星放課後カフェ
事業所管課	総合政策局 園田地域振興センター 園田地域課 教育委員会事務局 学校教育部 高校教育課
事業内容	(実施期間、実施場所の実績についても明記のこと) 尼崎双星高等学校内で、気軽に立ち寄れる「居場所」をカフェ形式で提供し、学校でもない家庭でもない、「第三の居場所」において、様々な大人との交流を通して、生徒達の悩みを共有し解決などを図っていく。 令和5年度は、延べ19回実施し、参加者は延べ1,646名(令和6年2月6日現在)

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A(よくできた)、B(まあまあできた)、C(あまりできなかった)、D(まったくできなかった)
- ・結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画(準備)段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	A	A
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	A	A
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	A	A
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	A	A
(2) 予定外のことにについて、協力して対応することができたか	A	A
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関われたか	A	A
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	A	A
その他(契約締結後にあらかじめ任意で設定する項目、項目数は不問)		
(1)		
(2)		
(3)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	「カフェを知っている」と答えた生徒の数
	測定方法	全生徒を対象にアンケート
	結果	256人（アンケート回答者312人中、82%）
2	評価指標	昨年度と今年度カフェに参加した生徒の数
	測定方法	参加者名簿
	結果	1,646人（昨年度1,045人）[各年度2月末時点]

3 総合評価

協働側面の評価

1 事業計画（準備）段階について

- ・今年度実施する前に学校と所管課を含め実施目的や実施体制、課題や目標について話し合い、相手の立場や組織、ルール等を共有し理解し合いながら、「事業計画（準備）段階」の各項目を意識してスムーズに取り組むことができた。
- ・年度当初に学校の行事予定を踏まえ開催可能日を共有できたこと、2カ月前の開催日を周知することで、より効果的な情報配信を行うことができ、安定して開催することができた。

2 事業実施段階について

- ・団体と学校が直接開催日程を調整することで、学校活動の様子を聞く事ができ、生徒達とのコミュニケーションも取りやすくなった。
- ・学期毎に学校と団体・所管課で振り返りの場を設け、率直な意見交換を行い、生徒達のカフェでの様子や学校活動の様子を共有することができた。
- ・開催中に気になる事案があった場合も速やかに学校と共有し対応することができた。
- ・計画通り月2回実施することができた。

事業効果の評価

- ・評価指標1について、学校側の協力のもと、昨年度に引き続き今年度も全生徒を対象にアンケートを実施する事ができ、成果や課題を把握することができた。（R6.2月実施）
- ・評価指標2について、事前周知や学年別ではなく全生徒を対象に月2回開催することで参加者数が増えた。
- ・ユース交流センターの職員や地域の大人が関わっていることで、カフェの目的を認識している生徒が増え、生徒が抱えている悩みや思いを積極的に話すなど人との交流で心の刺激をうけている様子がみられた。
- ・カフェ内で自分達ができそうな事はないか、生徒達が自らスタッフに声をかけ配膳やセッティングをするなど自主的に活動している姿が見られ、事業目的である「交流の場」を提供することができた。

総評

- ・生徒が開催日を把握できるよう学校側の協力のもと、チラシの配布や開催日当日の朝にカフェののぼりを設置し、情報配信を行った。登校時にのぼり等を見て友達と計画を立てカフェに来てくれる生徒も増えて全体の参加者が増えた。
- ・引き続きユース交流センターの職員（SSW）の協力も得られ、悩みを抱えている生徒をユース交流センターにつなぎ、ユースで開催するイベントに積極的に参加するなど地域に興味を持つ生徒の姿もみられ、生徒を孤立させず支援につなげることができた。
- ・実施する中で見えた課題については、学校と話し合いながら今後もよりよい手法で実施していきたい。
- ・コロナ禍における人間関係の疎遠化が社会的に問題となる中、市民提案制度で3年間実施することができ、民間と行政・学校で関係性を築きながら、開催に向けて協議し実施策や課題を見つけ提案を具体化できたことは、大きな効果と反響があった。
- ・今まで積み重ねてきた関係を活かし来年度も校内で居場所作りを実施し、生徒達の主体性を育めるような場も提供をしていきたい。

（実施結果報告に対する審査会委員意見）

- ・事業効果の評価について、生徒へのアンケートとなっているが、保護者や教員の方からの評価についても、例えば、参加してる生徒さんに事業前後でどんな変化があったか等、アンケート等の評価があるとよいのではないか。
- ・事業としては、その場だけでなく地域との関りにも含まれていたかと思うので、この事業に参加した生徒さんが地域のことに積極的に主体的にかかわれるような仕掛けも今後取組の工夫としていただきたい。

4 収支結果（協働事業のみ）

収入の部				
科目	積算金額（単位：円）			内容及び算出根拠
	予算額	決算額		
市補助金	300,000	300,000		
自主財源	4,000	37,142		
収入合計	304,000	337,142		
支出の部				
科目	積算金額（単位：円）			内容及び算出根拠
	予算額	決算額		
		計	うち市補助金	
需用費	229,000	257,142	240,000	消耗品 180,032円 消耗品（カフェ材料費 77,110円）
報償費	12,000	0	0	
人件費	63,000	80,000	60,000	@1,000円×80名（延べ）
支出合計	304,000	337,142	300,000	補助額に対する人件費割合：20%（委託事業は記入不要）